

メッセージタイトル 「自由なイエス」 聖書箇所 フィリピの信徒への手紙 2章6-11節

あなたは自由な人ですか？

「自由な人」というのは何にも支配されず、強制されず、自分の運命、自分の人生を自分で決め、思いのままに生きる人というような印象があります。

私たちは神によって、神の似姿に創造されたものであり、ロボットではありません。

自由意思が与えられ、人生の中で様々な選択をすることができます。

しかし自分の思い通りにならないと自分ではなく他人のせい、環境のせい、悪魔のせい、また神様のせいにします。

イライラして、声をあげて主張し、攻撃的になることもあります。

心の中がすさみ、満たされなくやさしさ、怒り、悲しみ、不安や恐怖に陥ることがあるかも知れません。

私自身、おぼえがあります。

心がそのような状態にあるとき、果たして自由だと言えるのでしょうか？

自由でない人は、「縛られている人」です。

『フィリピの信徒への手紙』の著者、使徒パウロは、彼の宣教の働きに反対する人たちによって何度も投獄されました。

しかし、獄中のパウロが、力強く、また、喜びと希望をもって、フィリピの信徒へ語る力はどこから来るのでしょうか？

私たちは、何かに縛られていたり、誰かに束縛されているときがあります。

家族や友人、恋人、上司や同僚、教師や牧師であるかもしれません。

規則や時間、また、悪習慣に縛られている場合もあるでしょう。

ゲーム、スマホ、インターネット、スイーツ、お酒、たばこ、趣味など、わたしたちを束縛するものは様々です。

それは私の自由でしょ？と言います。私もその一人でした。

でも、実のところ、やめたくてもやめられない。

自由ではなく、縛られていたのです。

それらによって時間も心も束縛されていくのです。

聖書に、真理はあなたを自由にするという言葉があります。

そして、イエスキリストはご自分が真理であると言われました。

“Being Free as Jesus” Philippians 2:6-11

Are you free?

“Free person” sounds like someone who can choose to do anything and is not under any control or restrictions.

We are created by God in His image, and we are not a robot.

We have been given free will to make any choice.

But when things don't go our own way, we blame others, even God.

We can be frustrated and become critical.

And our hearts can be full of bitterness or grief because of unsatisfied desire.

I remember being that way.

But are we really free, in a state like this?

Opposite of free is being bound.

Paul, the writer of the letter to the Philippians was imprisoned many times by those who opposed his ministry.

But where did he get the strength to write this letter from a prison with so much joy and hope?

We are often bound by things or someone.

They may be the loved ones, people from work or church.

We could be bound by rules, times, or bad habits.

Things that bind us vary - from games, phones, internet, sweets, alcohol, hobbies, etc.

“I'm free to do so!” I used to say that too.

But the fact is, I couldn't quit even if I wanted to.

I wasn't free. I was bound.

Those things chain my heart and time.

Bible tells us that the truth will set us free.

And Jesus Christ said he was the truth.

英語の F R E E、フリーという言葉には、自由な、という意味のほかに、空っぽ、無料、値打ちがない、という意味があります。

自由になるためのヒントがここに隠されているのではないかと思いました。

6節から8節をお読みします。

6 キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。

人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。

「自分を無にして」とありますが、それは自分を空っぽにすることです。

イエスキリストは神の身分、神の特権を横に置いて、空になり、ご自身が進んで人間の姿になられました。

人にならなければ、死ぬことはできません。

また、「僕(しもべ)」という訳がされている原語には奴隷という意味があります。

奴隷には主人がいます。奴隷は100%主人の言う事に従わなくてはなりません。

そして、主人が解放してくれなければ自由の身になることはできません。

主人に仕える奴隷のようにイエス・キリストは父なる神に従ってくださったのです。

十字架の痛みと苦しみは想像を絶するものです。

しかもその死は父なる神との関係を断ち切るものでした。

十字架を目前にしたイエスはゲッセマネで

「父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに。」(マタイ 26:39)

と、祈られました。

イエスは、父なる神の御心をはっきりと知っていました。

十字架を拒否する自由もありました。

The word “free” also has a meaning of “without charge” or “for nothing”.

Maybe we could draw some hints from there.

I read from verse 6 to 8.

6(Christ), Who, being in very nature God, did not consider equality with God something to be used to his own advantage; rather, he made himself nothing by taking the very nature of a servant, being made in human likeness. And being found in appearance as a man, he humbled himself by becoming obedient to death—even death on a cross!”

“...made himself nothing” means he emptied himself.

Jesus emptied himself of the divine identity and authority and became human willingly.

Needed to be human to die.

The word “servant” also has a meaning of slave.

Slaves have a master, and they have to obey the master 100%.

Unless the master set them free, they cannot be a free person.

Jesus became obedient to Father God, just as a slave would do to a master.

The pain and agony of cross is beyond our imagination.

And that death meant complete separation from Father God.

Before the cross Jesus prayed in Gethsemane,

“My Father, if it is possible, may this cup be taken from me. Yet not as I will, but as you will.” (Matthew 26:39)

Jesus knew the will of the Father.

He was free to reject the cross.

しかし、イエスはその自由な意思を持って、ご自分から進んで十字架にかかって死んでくださいました。

私たちは神に背くという選択をした罪のために神から離れているものでした。

私たちこそが、神の裁きをうけるべき者でした。

しかしイエス・キリストは、十字架上で私たちの身代わりに、その裁きをご自身に受けてくださいました。

私たちが死ななくていいように、ただ一度、この犠牲の死を遂げてくださったのです。

この十字架の本当の意味、神の愛を知ったとき、人々はどのように応答するでしょうか？

神様の前にひれ伏して、「ありがとうございます」、あるいは「ごめんなさい」かもしれませぬ。

私自身のことを言いますが、「ありがとう」は簡単に言えるのですが「ごめんなさい」がなかなか言えません。

ごめんなさいというと、自分が悪かったと認めることになるからです。

自分が正しいと思っているときはとくにそうです。

しかしそのへりくだりと悔い改めの心が救いに必要なのです。

イエスキリストを信じて救われたとき、私たちの罪がゆるされ、罪に縛られて奴隷であった私たちが自由にされます。

(ガラテヤ 2:20)

生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。

新しいいのちが与えられ人生が変えられたとき、神様あなたに従います！あなたのために生きます！という思いがわいてきます。

しかし、実際にはなかなか思うようにはいきません。

私は以前アメリカに長く住んでいました。

1981年のある晩、友人の家で、聖書の学びの最中に救われました。

救われてすぐは嬉しくて教会へ行き、一生懸命聖書を読み、祈り、神様の御心を信じて、神様に喜んでもらいたい、イエス様のことを友達に伝えました。

Yet he willingly chose the death on the cross.

We were separated from God because of our sin of denying God.

We should have been judged.

But Jesus took the judgement upon himself on the cross in our place.

He sacrificed his life to save us from dying.

When we find out the meaning of the cross and love of God, how would we respond?

Bow down to give him thanks or say that I am sorry.

But as for me, it is much more difficult to say sorry.

Because it means I am admitting it's my fault.

Hard to say when I think I am in the right.

But the salvation requires humility and repentance.

Believing that Jesus is our savior, our sins are forgiven, and we are set free from the bondage of sin.

"I have been crucified with Christ and I no longer live, but Christ lives in me. The life I now live in the body, I live by faith in the Son of God, who loved me and gave himself for me." (Galatians 2:20)

With this new life transforming us, we are filled with desire to follow God and live for him.

But, in reality, things don't go the way we want.

I used to live in US.

I got saved in the bible study group at my friend's house in 1981.

I was excited about my new faith. Went to church, read the Bible, spoke to friends about Jesus, just wanting to do God's will.

しかし、時がたつと、世の誘惑に負けて、すっかり自己中心的な生活になり、教会から離れてしまい、神様を悲しませてしまった時期がありました。

せっかく自由にされたのに、また自由でなくなってしまったのです。

みなさんは WWJD というフレーズをご存知でしょうか？

1990年代にそのデザインのブレスレットをつけるのがクリスチャンの若者の間で流行しました。

何の略かといいますと、What would Jesus do? イエスならどうするだろうか? という意味です。

毎日の生活で、誘惑があるとき、なにかの決断、選択をしなくてはいけないとき、ブレスレットの文字が気づきを与えてくれるのです。

自分の思いではなく神の御心を行ないたい。

こんなときイエス様ならどうするだろうか? という思いは今の私たちも同じです。

ブレスレットはなくても大丈夫です。

神の御心は聖書に書かれていますし、救われた私たちの中には人生を導いてくださる聖霊がおられます。

主の霊のおられるところに自由があります。(コリント二 3:17b)

イエス・キリストの霊が救われている私たちの中に住んでおられます、聖霊によって導かれる人生は自由な人生です。縛られているものから解放されているからです。

ヨハネによる福音書 8章36節には

だから、もし子があなたたちを自由にすれば、あなたたちは本当に自由になる。

と、あります。

また、聖書は

この自由を得させるために、キリストはわたしたちを自由の身にしてくださったのです。だから、しっかりしなさい。奴隷の軛に二度とつながれてはなりません。

(ガラテヤ 5:1) と、励ましてくれます。

自分の罪を認め、イエス・キリストを救い主として信じ受け入れる者は、罪を赦されるだけでなく、罪の支配から解放されて、愛と希望の人生、そして本当の自由な人生を歩むことができると、聖書は約束しています。

But after a while, I returned to self-centered life, not going to church anymore, grieving God.

I was set free, but I lost that freedom.

Are you familiar with “WWJD”?

Wearing a bracelet with this design was a thing to do among young Christians in 1990s.

It’s an acronym for “What Would Jesus Do?”

Wearing the bracelet would remind you in times of temptation or decision makings.

To do God’s will, not our own.

We ask that same question. What would Jesus Do?

You don’t need a bracelet.

God’s will is written in the Bible, and we have the Holy Spirit who guides our paths.

“...where the Spirit of the Lord is, there is freedom.” (2 Corinthians 3:17b)

The Spirit of Jesus lives within those who have been saved.

The life guided by the Spirit is a liberated one, because all the bondages have been broken.

John 8:36 says, “So if the Son sets you free, you will be free indeed.”

Also the Bible encourages us that,

“It is for freedom that Christ has set us free. Stand firm, then, and do not let yourselves be burdened again by a yoke of slavery.” (Galatians 5:1)

When we admit our sins and accept Jesus Christ as our Savior, not only our sins are forgiven, but set free from the bondage of sins. And it allows us to live a liberated life full of love and hope.

イエス・キリストこそ自由なお方で私たちを自由にできるお方です。

信仰生活を歩むとき人生には様々な誘惑や挑戦があります。

自分に立てられた神様のご計画、召命を知り、それに従いたいと願います。

しかし、自己中心になってしまうと高慢になり、神の御心が行なえなくなってしまう。

イエス・キリストは、謙遜、すなわち自己否定と、父なる神のみこころに従うという、へりくだりによって高く上げられました。

11節 すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。

あなたは、イエスは私の主です、と公に言えますか？

イエスは私の所有者で、私はイエスの僕ですと言えますか？

イエス・キリストのように本当に自由になるにはどうしたらよいのでしょうか？

自分を空っぽにして謙遜になる必要があります。

今、あなたの中を支配しているものは何でしょうか？

自分の思いでしょうか？神様の思いでしょうか？

そのすべてを取り出し、一度、神様の前に置く必要があります。神の前にひれ伏し、心を注ぎだして祈りましょう。

神様は、あなたの空になった心を神様のもので満たしてください。

そして、「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。」
(イザヤ43:4)と言ってください。

ご一緒にお祈りしましょう。

天の神様、御子イエスキリストを地上に送ってくださりありがとうございます。

キリストによって私に新しいいのちが与えられること、そして、私を縛られているものから解放して下さることを心から感謝します。

あなたに喜ばれるしもべになりたいです。

今自分の中を空っぽにしますから、あなたが満たしてください。

そしてあなたの自由を私に与えてください。

イエスキリストの御名前によってお祈りします。

アーメン

Jesus who is free from everything is the one who can set us free.

There are many temptations and challenges in our faith walk.

We want to follow and fulfill God's will for our lives.

But our pride from self-centeredness would prohibit us from doing God's will.

Jesus was lifted high because he humbled himself by denying himself to obey God's will.

Verse 11 says "and every tongue acknowledge that Jesus Christ is Lord, to the glory of God the Father."

Will you acknowledge that Jesus is your Lord?

To say, "he is my master, and I am his servant"?

How can we be truly free like Jesus is?

We need to empty ourselves.

What are the things that has control of your life?

Your ways, or God's way?

Let us pour our hearts out before God, bow down and pray.

He will fill our empty hearts with what is his, and tells us

"...you are precious and honored in my sight, and...I love you" (Isaiah 43:4)

Let us pray

"Father God, thank you for sending your son Jesus to us.

Thank you for giving us new life and how you set us free from bondage.

We want to bring you joy as your servants.

We will empty ourselves, so that you can fill us.

Grant us your freedom.

In name of Jesus we pray,

Amen.